

年主題

「恵みを数えつつ歩む教会」

1. 礼拝順序

司式 役員
奏楽 オルガニスト

前 奏
招 詞

キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。(エフェソの信徒への手紙 1-11:14)

- 讚美歌 一編 312 番(1.2 節 次ページ)
- 主の祈り 裏面に掲載
- 交読文 29 詩 121 篇 (別冊交読文 p.34)
- 信仰告白 使徒信条 (別冊交読文 p.57)
- 聖書 エレミヤ書 29 章 4~14 節 P1230
コリントの信徒への手紙二 4 章 16-18 節 P329
- 祈 書 北川善也牧師
- 祈 説 教 北川善也牧師
- 祈 説 教 「恵みの約束、平和の計画」
- 讚美歌 一編 304 番(1.4 節 次ページ)
- 讚美歌 献 21-65-2 番 担当番
- 讚美歌 21-29 番
- 祝 禱 北川善也牧師
- 報 告
- 祈りの時 牧師が与えられるように、伝道献身者が起こされるように。
- 後 奏

○印は起立ですが、お体に差しさわりのある方は、ご無理なさらず、おかけになったまま礼拝をお守りください。

2. 集会案内

- 礼拝前祈禱会 10:15 於:礼拝堂前方
- 礼拝堂お掃除 礼拝後
- お掃除後 婦人会 週報発送
- ※聖書研究・祈禱会は休会中です。
それぞれの場においてお祈りください。

聖書 (聖書日課・木曜日)テモテ II 2:14-26

今月の
祈り

- ・コロナウイルスに感染された方々のご快復と、感染症の一日も早い終息と医療従事者の方々のために。
- ・伝道献身者のために。神学校のために。
- ・宣教師のために。
- ・土地・建物資金返済献金(年間目標額:100万円)をおさげ出来ますように。
- ・教区祈りのカレンダーより祈る教会:小金井教会
- ・木戸健一牧師 創立1938年 現住陪餐76
- ・礼拝出席36 祈禱会出席/CS出席10 予算1044万円
- ・小金井教会は隣接地を購入し、教会幼稚園の新制度施設型給付)への移行と牧師館の建築を実現するため、祈りつつ歩んでいます。

○次週主日礼拝 7月3日(日)10時半

聖霊降臨節第5主日 聖餐式

「宣べ伝えよ」

旧約 詩編 78 編 1~4 節
新約 テモテへの手紙二 4 章 2 節 米倉美佐男牧師

司式:役員 奏楽:オルガニスト

礼拝当番:担当番 配餐 役員

招詞・詩編 107 編 17-22 節 交読文 14 詩編 50 篇

讚美歌 1-390(1.3)、II-171 21-504 (1-3)

- 礼拝前祈禱会 10:15 於:礼拝堂前方
- 礼拝後大掃除 礼拝堂・教育館 庭周り
- 教会学校 9:30~ メッセージ CS教師

【主の祈り】

天にまします我らの父よ。
願わくは御名（みな）をあげさせたまえ。
御国（みくに）を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、
地にもなさせたまえ。
我らの日用（にちよう）の糧（かて）を
今日も与えたまえ。
我らに罪を犯す者を我らが赦（ゆる）すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らを試（こころ）みにあわせず、
悪より救いだしたまえ。
国と力と栄えとは、
限りなく汝（なんじ）のものなればなり。

【使徒信条】

我は天地の造り主ぬし、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、
我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊（せいれい）により
てやどり、処女（おとめ）マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのも
とに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）
にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇のぼり、全
能の父なる神の右に座したまへり、かしこより来りて、生ける者と
死ねる者とを審（さば）きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同
の教会、聖徒の交わり、罪の赦し（ゆるし）、身体（からだ）のよみ
がへり、永遠（とこしえ）の生命（いのち）を信ず。 アーメン。

【讚美歌 312】

1. いつくしみ深き 友なるイエスは
罪とが憂いを とり去りたもう。
こころの嘆きを 包まず述べて、
などかは下（おろ）さぬ 負える重荷を。
2. いつくしみ深き 友なるイエスは、
かわらぬ愛もて 導きたもう。
世の友われらを 棄て去るときも、
祈りにこたえて 労（いたわ）りたまわん。

【讚美歌 304】

1. 眞実（まこと）なるみかみを たのめるもののみ、
岩（いわ）の上（え）に家をば 建てしひとのごと、
なやみのときにも 動くことなからん。
4. みめぐみのちからを ひたすらたたえて、
みさかえのひかりに たえせず照らされ、
この世のたびじを 勇ましくすすまん。